須賀川市教育研修センターだより　第 87 号

「 み ち 」　令和元年６月　１５日 発行

子どもたちの近未来

～新学習指導要領の背景にあるもの～

来年度，小学校の学習指導要領改訂からスタートする新たな時代への教育改革。

文部科学省の行政資料や初等中等局教科調査官の講話の中には，日本の近未来予想図が示されています。

○　２０３０年の日本の社会，現在の子どもたちの６５％は今この世には存在しない仕事につくと言われています。

○　社会全体の業務のオートメーション化（ＡＩ化）は４９％まで進むだろうと予測されます。

○　２０３０年の１００歳以上は１００万人になる見込みだそうです。超長寿社会，子どもたちの人生は長いのです。

予測できない社会です。私たちの想像できない世の中で子どもたちは生きていくことになります。

世界的に見て，日本の子どもたちの学力は高い，しかし，学習の楽しさがわかっているとか，学んでいることが役に立つという認識は低いようです。また，自己肯定感が低いということも大きな課題としてあげられています。

『主体的・対話的で深い学び』の目指すものの先には，予測の難しい近未来を生きる人間の育成という主眼があります。新たなものを生み出していくためには，自分の感じ方・考え方を磨き，思考力・判断力・表現力を発揮して，仲間と議論し，集団としての合意形成を図る。その過程で，社会参画，人間関係形成，自己実現といった自治的能力を身に付けさせるということです。

社会の変化に対応して，子どもたちの日々の学びも変わっていかなければならない。本市で掲げている『授業と授業研究を第一優先とした学校づくり』は，未来を生きる子どもたちの姿にフォーカスを当てた取り組みです。主体的で対話的で質の高い授業の中で，すべての子どもたちが，互いに仲間を支え，仲間に支えられ，認め合い，自己有用感を味わいながら目を輝かせて学ぶ姿，それは近未来社会の担い手としての子どもたちの姿であると信じます。

近未来を託す子どもたちへの教師の関わりもまた重要です。合理的・機能的に基礎・基本の習得を図る授業のよさをふまえ，子どもたちが一人残らず 45 分間（50 分間）集中して学ぶ授業を考え続けていかなければなりません。主体的・対話的な教師から主体的・対話的な授業が生み出されます。子どもが違えば授業の形もおのずと変わってきます。その違いと面白さについて，子どもの姿から教師が対話的に考え合うことが授業研究の醍醐味となります。

未来を託す子どもたちに主体的・対話的な学びの姿を求めるからこそ，職員室や授業研究の場での教師も，主体的・対話的でありたいと願っています。

みかんの房

糖度の高いおいしそうなみかん。みかんの皮をむいてみると一房一房は同じように見えても，違った形の房が組み合って一つのみかんを形作っていることがわかります。

子どもたちの知的能力をみかんの房で考えてみます。形に差がないように見えても，一房一房（認知能力）はそれぞれが独特でふぞろいです。

知覚，記憶，推理，言語理解数，空間，処理速度等，様々な能力をみかんの一房一房に例えてみると，何が得意で何が不得意なのか，そこにそれぞれの特性があることがわかります。

それらの集合体として，子どもの認知能力，そして個性が形成されているということです。

一房一房から子ども一人一人の特性，個性が見えます。そして，その子の強みがその房の形態からわかってきます。

「学び続ける教師たちの挑戦」
～第１回学校指導委員研修会～

５月８日，学校教育指導委員に委嘱された２５名の先生方への委嘱状交付式と第１回の研修会が開催されました。

『アクティブ・ラーニング』の授業づくりへ。先生方は意欲的に研究に取り組み始めています。

研修会では，菅野哲哉課長と菊池進教育研修センター指導主事の講話に併せて，渡辺和也学校教育課主任指導主事の中学校美術科模擬授業で研修を行いました。

１年人物画の鑑賞の授業。造形要素から発想を拡げて人物を想像しモデルへの手紙を書く活動を通して，作品から感じ取ったことを表現する授業でした。

先生方は生徒役。学び手となって授業を体験し，グループワークでは自分たちの思いを対話によって学び深める活動の大切さを実感しました。

教える授業から学び取らせる授業への転換，そして，子どもの学ぶ権利を一人残らず保障し，子どもが夢中になって学ぶ授業づくりの実現へ。大きな夢を持って，学校指導委員の先生方の挑戦も始まりました。各学校を訪問させていただき，先生方と授業について語り合っていきたいと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。

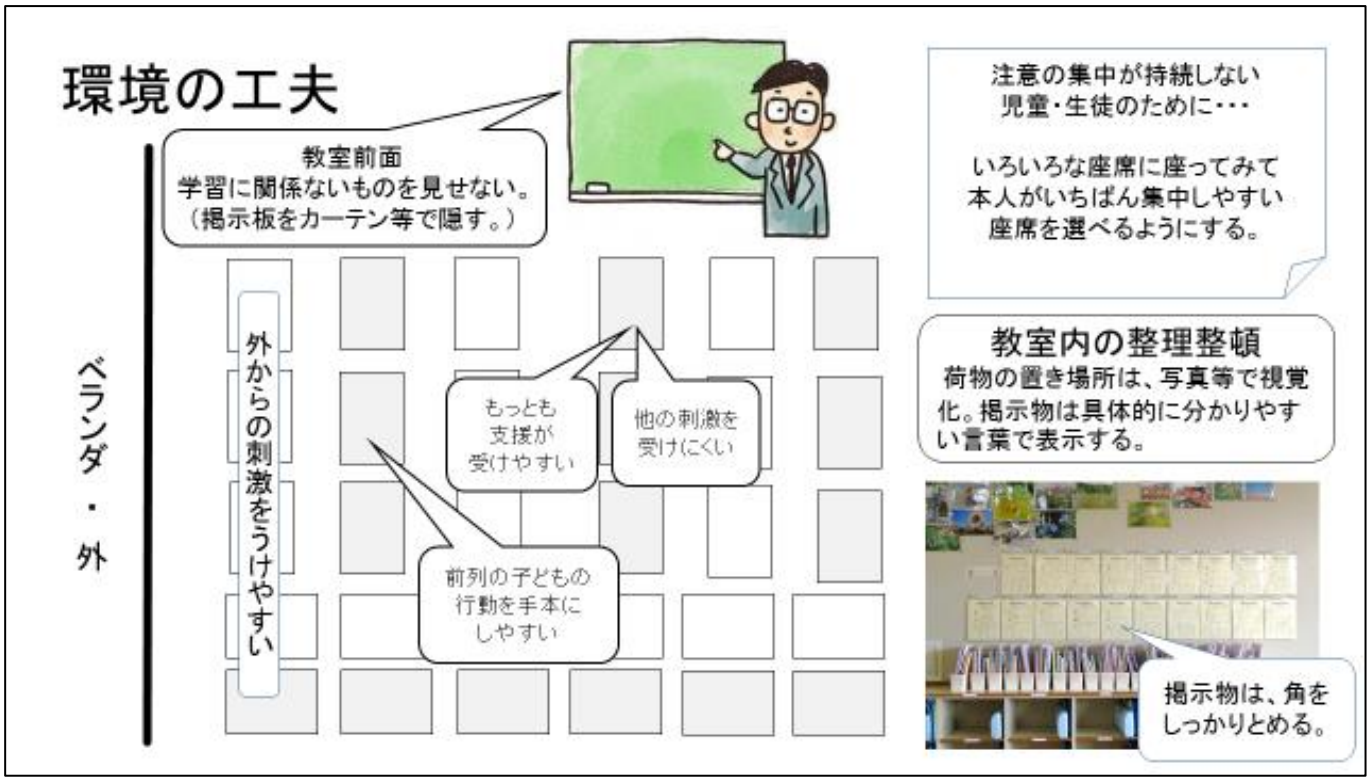
【菅野課長の講話から】

○「授業」と「授業研究」は学校づくりの原点

・教員が専門職として「子どもの学び」に焦点を当てながら主体的・対話的で深い学びの見てとれる授業を目指す。

○研究授業から「授業研究」へ

・教師もまた成長できるような授業研究に変えていくことが大切。

子ども一人ひとりの集中した学びのために　～教室環境を考える～

新学年がスタートして２カ月。各学校のどの学級でも，子どもたちの充実した学びが進められていることと思います。子ども一人ひとりに深い学びを生み出す学習空間づくりを工夫していきましょう。